



平五白米南新

同 雜



千五百番歌合卷第十九 推一判者お権信
子三百五十一番



左巻

右巻

ゆきこは万代にけしほり一の節や推一の節の歌を

右

三三

久々の歌にけしほり一の節や推一の節の歌を

あつたはしつひとあつたはしつひとあつたはしつひと

よりの松のたの巻

子三百五十二番

右

左巻

みまの世よあつたはしつひとあつたはしつひとあつたはしつひと

右巻

左巻

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

子三百五十三巻

右

たの禮儀也

昭石の如くしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

右巻

たの禮

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

子三百五十二巻

左

たの禮

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

右巻

たの禮

佐吉の如くしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

子三百五十一巻

左

たの禮

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

右巻

たの禮

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

子三百五十巻

左

たの禮

とてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなりとてしるべきなり

右巻

たの禮

何なる也

新編うしはらひのり一十巻のちからをわくし清の事を約ん

清の事からわくし一十巻のちからをわくし清の事を約ん

子三百五十七巻

左

まひ

此のりり日教にけぬる物ありしにいふにわくし一十巻のちからをわくし

右巻

後成の女

孫えらり月信より一真山の事ありしにわくし一十巻のちからをわくし

孫えらり月信より一真山の事ありしにわくし一十巻のちからをわくし

物ありしにわくし一十巻のちからをわくし

子三百五十八巻

左巻

後成

右の非世より一真山の事ありしにわくし一十巻のちからをわくし

右

母後

時あまのむらさきより一真山の事ありしにわくし一十巻のちからをわくし

約ありしにわくし一十巻のちからをわくし

子三百五十九巻

左

小伝後

神より一真山の事ありしにわくし一十巻のちからをわくし

右巻

越前

いす川より一真山の事ありしにわくし一十巻のちからをわくし

曉の事ありしにわくし一十巻のちからをわくし

子三百六十巻

右巻

左巻

清伝下

物ありしにわくし一十巻のちからをわくし

右

有敵部下

大くの月をいさよは後の方におぼれしうきさるのそへ
あふゆとさるゑまののそとくの月を楯こそけしきこ
あふゆとさるゑま

子三百六十一歳

た指

有敵部下

はたしての世はさるゑ米見のりすは川のまよひたふれ
通を羽衣

右

通を羽衣

想ふねよかのよき色の松風の葉をさるゑの秋をぬせ
米をいさよは後の方におぼれしうきさるのそへ

子三百六十二歳

た

有敵部下

鳥入山のうへありすのいさよはのそへ

右指

有敵部下

米見のいさよは後の方におぼれしうきさるのそへ
あふゆとさるゑま

子三百六十三歳

た指

有敵部下

あふゆとさるゑまののそとくの月を楯こそけしきこ

右

有敵部下

あふゆとさるゑまののそとくの月を楯こそけしきこ
あふゆとさるゑまののそとくの月を楯こそけしきこ
平三百六十一歳

右

有敵部下

あふゆとさるゑま

てる月をさよら霞の中よりて都家さうれた方のゆく

右 如寒者得火 車道

昔のまはりの風さきのひとさきのあはれさう

あられさきのあはれさうさうさうさうさうさうさう

千三百六十七巻

た 歌

あめさく晴るおきさうさうさうさうさうさうさう

右 橋 歌

あめさく晴るおきさうさうさうさうさうさうさう

あけさけら晴るおきさうさうさうさうさうさう

あけさけら晴るおき

千三百六十六巻

た 橋 女房

ありさ海のあけさけら晴るおきさうさうさうさう

右 日暮

林あけらと緑のあけさけら晴るおきさうさうさう

あけさけら晴るおきさうさうさうさうさうさう

あけさけら晴るおき

千三百六十七巻

た 橋 女房

あけさけら晴るおきさうさうさうさうさうさう

右 歌

あけさけら晴るおきさうさうさうさうさうさう

あけさけら晴るおきさうさうさうさうさうさう

ゆきば

小三十八番

た

おかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

右 傍

おかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

おかげさまで

小三十九番

た 傍

おかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

右

おかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

小四十番

た

おかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

右 傍

おかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

おかげさまで

小四十一番

た

おかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

おかげさまでおかげさまでおかげさまで

右 傍

後成の母

あつたふんそまぬまのけら成のふね
あつたふんそまぬまのけら成のふね
あつたふんそまぬまのけら成のふね

千三百七十二番

た 傍

心

あつたふんそまぬまのけら成のふね

右

母 傍

あつたふんそまぬまのけら成のふね

あつたふんそまぬまのけら成のふね

千三百七十三番

た 傍

横 傍

たる 傍

あつたふんそまぬまのけら成のふね

右

越 傍

あつたふんそまぬまのけら成のふね

あつたふんそまぬまのけら成のふね

あつたふんそまぬまのけら成のふね

千三百七十四番

た 傍

小 傍

あつたふんそまぬまのけら成のふね

右

定 傍

あつたふんそまぬまのけら成のふね

あつたふんそまぬまのけら成のふね

あつたふんそまぬまのけら成のふね

子三百七十五番

左指

澄佐部

あるの地はみちのちからしてはま月をわきしはるれ

右

通を部

あれたの世はつらつらとわたりとまは契するまをうし

はたまたあまをうしと持と東し都のしとあつてはる

子三百七十六番

後右身

左指

有家部

風をけいあまのしるしをのしるしをのしるしをのしるし

右

家澄部

勢をうきもね田の神のしるしをのしるしをのしるし

はたの風をけいあまのしるしをのしるしをのしるし

子三百七十七番

左指

保孝部

しるしをのしるしをのしるしをのしるしをのしるし

右

雅澄

あまのわきのしるしをのしるしをのしるしをのしるし

とあつてはるしるしをのしるしをのしるしをのしるし

子三百七十八番

左

良平

電はふりてはるしるしをのしるしをのしるしをのしるし

右指

如禊者得衣

今と思ふしるしをのしるしをのしるしをのしるし

みちのしるしをのしるしをのしるしをのしるし

巻之九

千二百七十九巻

九

具親

見しむるに世と昔と異なりて其のありしは

左様

家長

は比のあやのうへに流るるに

おもしろくもあらざるに

し

千二百八十巻

九

取胎

しるの田のよきものなりて

右様

心算

香の好むるものなりて

造用

千二百八十一巻

右様

左様

書房

すまのうへに流るるに

右

心算

は比のあやのうへに流るるに

おもしろくもあらざるに

し

千二百八十二巻

左様

心算

毎のうへに流るるに

右

心算

右

Joseph

ms. O. 20. 4. 11. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

St. Joseph's Hospital

子三百年十三中書

た

お徳傳

ありけりあはれに橋の流るる水に我の心を流する

た橋

通光

あはれに橋の流るる水に我の心を流する

お徳傳

子三百年十中書

た

お徳傳

結しをあらねどあふりあひん書けりし世にあり

た橋

お徳傳

あふりあひのしらるる水に我の心を流する

あふりあひのしらるる水に我の心を流する

子三百年八十五中書

た橋

お徳傳

あふりあひのしらるる水に我の心を流する

た

お徳傳

あふりあひのしらるる水に我の心を流する

あふりあひのしらるる水に我の心を流する

子三百年六中書

た橋

お徳傳

た橋

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

右

冊後

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten number or date, possibly '111'.

左

Handwritten text, possibly '111'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

左

Handwritten text, possibly '111'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text, possibly '111'.

Handwritten number or date, possibly '111'.

左

Handwritten text, possibly '111'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

左

Handwritten text, possibly '111'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text, possibly '111'.

Handwritten number or date, possibly '111'.

左

Handwritten text, possibly '111'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

左

Handwritten text, possibly '111'.

〜〜〜
の三九十一番
にたる結

右 借伏御札

〜〜〜

右 赤借御下

あはれ
後の月よ新代あはれの〜の松の梢よ秋の霞うめく

かかれの春あはれの〜の松の梢

にたる結

の三九十一番

右 有家御下

〜〜〜

右 新經

〜〜〜

の三九十一番
〜
にたる結

右 保孝御下

〜
〜

右 如高入御下
家達

〜
〜

〜
〜

にたる結

の三九十一番

右 良平

〜

右 信忠

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

子三十一
右
其親

右

海

年毎にあらはる所の事は其の如くあらはるる事
と
此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事

三百九十八番

尾

右

此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事

右

右

此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事

三百九十九番

尾

右

此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事

右

右

此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事

尾

尾

右

此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事

右

右

此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事
此の如くあらはるる事

尾

尾

おのり

尾指

栗の穂

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

越の

まじりの穂をこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

まじりの松指類

おのりなるは

尾指

心せぬ

申へて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

右

栗の穂

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

おのりなるは

おのりなるは

尾指

栗の穂

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

右

栗の穂

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

まじりの穂

おのりなるは

尾

栗の穂

まじりて居るにこそおのりなるはしらの見ゆらんおのりなるは

右

栗の穂

右

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

右

千四百六十五

千四百六十五

右

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

右

千四百六十五

千四百六十五

右

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

右

千四百六十五

千四百六十五

右

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

千四百六十五

右

千四百六十五

千四百六十五

右

具親

ある者の人に延びて世の中をまわすに
しるすの事持てしるす世の中をまわすに

千四百七十七

白持録

た

具親

よのひの世の中をまわすに

右

白持

世の中をまわすに

千四百七十七

白持録

た

既胎

世の中をまわすに

右

既胎

世の中をまわすに

世の中をまわすに

世の中をまわすに

千四百七十七

右

既胎

世の中をまわすに

右

既胎

世の中をまわすに

世の中をまわすに

世の中をまわすに

千四百七十七

右

既胎

右

左

春の国より渡りくる民とみまらへしとて

右

左

の海よりわたりてゆく民とみまらへしとて

をりてゆく民とみまらへしとて

海の国よりわたりてゆく民とみまらへしとて

千四百十三番

右

左

意こそる難波の国よりわたりてゆく民とみまらへしとて

右

左

とてゆく民とみまらへしとて

とてゆく民とみまらへしとて

の国よりわたりてゆく民とみまらへしとて

千四百十三番

右

左

とてゆく民とみまらへしとて

右

左

松の国よりわたりてゆく民とみまらへしとて

をりてゆく民とみまらへしとて

千四百十三番

右

左

月夜に神よりわたりてゆく民とみまらへしとて

右

左

海の国よりわたりてゆく民とみまらへしとて

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

千四百十百

右

素結

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

右結

素結

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

右二結

千四百十百

左

通真

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

右言分

右

通真

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

千四百十百

左結

後

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

右

素結

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

千四百十百

左

小結

あやうきおのほろほろのうしろに
まがたにまがたにまがたにまがたに

あつちのついでに
ちづ

風はさかすまのついでに
橋のついでに
妻のついでに

ちづ
子に百廿二
た

志のついでに
ちづ
あつちのついでに
ちづ
あつちのついでに
ちづ

あつちのついでに

あつちのついでに
ちづ

あつちのついでに
ちづ

あつちのついでに
ちづ

あつちのついでに
ちづ

あつちのついでに
ちづ

千四百廿二番

千四百廿三番

左

右

この世の事はすべて定められておるものなり

左

右

人の心は神の御心にて動かさるるなり

神の御心は人の心にて動かさるるなり

左

右

千四百廿四番

左

右

人の心は神の御心にて動かさるるなり

左

右

月よりの光の源とては、神の御心なり

神の御心は人の心にて動かさるるなり

神の御心は人の心にて動かさるるなり

千四百廿五番

左

右

神の御心は人の心にて動かさるるなり

左

右

神の御心は人の心にて動かさるるなり

神の御心は人の心にて動かさるるなり

神の御心は人の心にて動かさるるなり

千五百番歌合巻中二十 雜二判者お権傍正

千五百廿六番

た 結

女房

張のすゝ草中の風子髪受て打たうしまひありぬの月

た

秋阿

青きく整への思ふをわづれなる月のうらこさるまよふんは

いもさるゝあてたれは海をまうしれ思やの着るまの

た 結

千五百廿七番

た

た 合

我んそのまのうらさうのうらさうも花やお葉とあつめはなうらさ

た 結

後成心

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

子百廿八歳

た

あつたはふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

た

あつたはふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

子百廿九歳

た

あつたはふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

た

あつたはふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

子百卅歳

た

あつたはふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

た

あつたはふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

子百卅一歳

た

あつたはふらふらな

あつたはふらふらなとふらふらな
あつたはふらふらなとふらふらな

疏のそ推るらん我亦や登の秋凡うよりのりいも

左猪

家七

玉がのろこそめなほの心也つたのよとまてはたか〜つて

あけぬいし〜のせんに推らん命〜はま〜ひかり

子に百廿六書

左頁

左猪

有乳節片

^{新集}
まののりま〜は〜か〜のし〜は〜ま〜れ〜は〜
すか

左

二頁

い〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

まのあ〜は〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

さる〜し〜は〜る猪

子に百廿七書

左

傳孝節下

初のうら〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

左猪

四六頁

志の後月す〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

子に百廿八書

左猪

左

百二頁

あ〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

左

七六頁

志成を〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

あ〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜のり〜

子に百廿九書

四六頁

た

貝殻

まほしの花のゆきわたるにうきわたる花のうき

た橋

あふく心

結ぶる花のゆきわたるにうきわたる花のうき

花のゆきわたるにうきわたる花のうき

た橋

た橋

た

花

まほしの花のゆきわたるにうきわたる花のうき

た橋

浦老心

まほしの花のゆきわたるにうきわたる花のうき

花のゆきわたるにうきわたる花のうき

花のゆきわたるにうきわたる花のうき

千四百一十

た橋

女房

まほしの花のゆきわたるにうきわたる花のうき

た

後成心

まほしの花のゆきわたるにうきわたる花のうき

花のゆきわたるにうきわたる花のうき

千四百一十二

た橋

た橋

まほしの花のゆきわたるにうきわたる花のうき

た

丹後

まほしの花のゆきわたるにうきわたる花のうき

花のゆきわたるにうきわたる花のうき

あつちのこゝろにいたる橋

小石川中流

た

あづま

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

な橋

越え

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

あつちのこゝろにいたる橋

小石川中流

た

な橋

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

な

あづま

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

あつちのこゝろにいたる橋

小石川中流

た

な橋

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

な

あづま

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

小石川中流

た

な橋

あつちのこゝろにいたる橋の昔は築きし百歩のこゝろ

三

右

糸巻部一

此の糸は... 糸巻部... 糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

左巻

三〇

糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

右巻

糸巻部

糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色... 糸の質...

右左巻

糸巻部

糸の長さ... 糸の太さ...

左巻

糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

右巻

糸巻部

糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

糸の長さ...

糸巻部



糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

右巻

糸巻部

糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

糸の長さ... 糸の太さ... 糸の色...

糸の長さ...

糸巻部

千四百五十一番

左

借作部

秘蔵と海深なる淵の底に居るものなり

右

三

うらやまの心は海深なる淵の底に居るものなり

見れば心は海深なる淵の底に居るものなり

猪

千四百五十二番

左

有家部

人教のあつたはるはるの世に居るものなり

右

四

千四百五十三番

うらやまの心は海深なる淵の底に居るものなり

い

千四百五十四番

右

保身部

おかしき神のまはるはるの世に居るものなり

左

五

月教と海深なる淵の底に居るものなり

みまはるはるの世に居るものなり

千四百五十五番

六

左

六

おかしき神のまはるはるの世に居るものなり

右

七

おかしき神のまはるはるの世に居るものなり

あやめいしなまのうたをうたはなすあはれむかひの
白の指

子記百五十一

貞親

月ひの光をうたはなすあはれむかひの
白の指

左様

通光心

その光をうたはなすあはれむかひの
白の指

藤花あはれむかひの
白の指

子記百五十一

元胎

あはれむかひの
白の指

左様

親阿

あはれむかひの
白の指

あはれむかひの
白の指

左様

子記百五十一

書

あはれむかひの
白の指

左

母

あはれむかひの
白の指

あはれむかひの
白の指

あはれむかひの
白の指

子記百五十一

左様

右様

あはれむかひの
白の指

子記百五十一

右

手紙

大橋

十月十日

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

手紙

大橋

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

手紙

大橋

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

手紙

大橋

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

手紙

大橋

十月十日

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

手紙

大橋

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

手紙

大橋

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

親友の家の様子を
聞かされたので
少しは慰められた

手紙

大橋

大橋

子 西 門 十 一 十 十 十 十

十 十 十 十 十

~~~~~

~~~~~

十 十

十 十 十

十 十 十 十 十 十 十

十 十 十 十

~~~~~

十 十

十 十 十

~~~~~

十 十 十

十 十

十 十 十

十 十 十 十 十 十 十

十 十

~~~~~

十 十 十 十 十

十 十 十

~~~~~

十 十

十 十 十

十 十 十 十 十 十 十

十 十 十 十

~~~~~

十 十

十 十 十

~~~~~

十 十 十

十

た

潜行部下

我者彼の如くは、*the same as you are* の如く

た 結

以下

位は彼に比して、*as compared with him* と

昔は *the same as in the past* の如く

千の百六十一年

た

以下

その如くは、*in the same manner* の如く

た

以下

数あるは、*as many as* の如く

其の如くは、*in the same way* の如く

千の百六十一年

た

た

以下

的なるは、*as for* の如く

た 結

以下

位は、*as for* の如く

位は、*as for* の如く

千の百六十一年

た

た 結

以下

其の如くは、*as for* の如く

た

以下

其の如くは、*as for* の如く

其の如くは、*as for* の如く

千の百六十一年

た

以下

Handwritten text at the top of the right page.

た

具取

Main handwritten text on the right page, starting with a large initial.

は

新河

Second line of handwritten text on the right page.

Third line of handwritten text on the right page.

あまれのなる結

Handwritten text at the bottom of the right page.

た

乳服

Main handwritten text on the left page, starting with a large initial.

は

後成

Second line of handwritten text on the left page.

Third line of handwritten text on the left page.

Handwritten text at the bottom of the left page.

は

た

中居

Main handwritten text on the right page, starting with a large initial.

は

新河

は

Second line of handwritten text on the right page.

Third line of handwritten text on the right page.

あまれのなる結

Handwritten text at the bottom of the right page.

た

中居

Main handwritten text on the left page, starting with a large initial.

は

新河

は

Handwritten text in cursive script, likely a list or record.

千四百七十一

た

お徳信

Handwritten text in cursive script.

た

通を

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

千四百七十一

た

お徳信

Handwritten text in cursive script.

た

お徳信

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

千四百七十一

た

お徳信

Handwritten text in cursive script.

た

お徳信

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

千四百七十一

た

お徳信

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text on the left side of the page.

七

添修部

Handwritten text on the left side of the page.

端入

Handwritten text on the left side of the page.

田

七

Handwritten text on the left side of the page.

外務省

七

Handwritten text on the left side of the page.

田

Handwritten text on the left side of the page.

田

七

Handwritten text on the right side of the page.

修文

七

Handwritten text on the right side of the page.

田

Handwritten text on the right side of the page.

Handwritten text on the right side of the page.

修文

七

Handwritten text on the right side of the page.

田

七

Handwritten text on the right side of the page.

田

Handwritten text on the right side of the page.

田

七

千四百八十番

た

奥親

しるすれいりもあつていぢまるといふは

た

後身

ありまゝりてあつたは

けりみあつていりていぢまるといふは

千四百八十番

た

た

恥恥

神あつていりてあつていぢまるといふは

た

母

あつていりてあつていぢまるといふは

あつていりてあつていぢまるといふは

千四百八十番

た

女房

あつていりてあつていぢまるといふは

横

た

女房

あつていりてあつていぢまるといふは

あつていりてあつていぢまるといふは

あつていりてあつていぢまるといふは

千四百八十番

た

女房

あつていりてあつていぢまるといふは

た

女房

あつていりてあつていぢまるといふは

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

大橋

子百八十八番

大

お指箱

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

大橋

お指箱

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

山

併し百八十八番

お指箱

子百八十九番

大

お指箱

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

大橋

お指箱

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

お指箱

子百九十一番

大橋

お指箱

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

大橋

お指箱

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

お指箱

子百九十一番

大

Handwritten text in a cursive script, likely a page header or introductory line.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script, continuing the page's content.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script, spanning across the gutter.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

Handwritten text in a cursive script.

Small handwritten character or mark.

Small handwritten character or mark.

~~~~~

た

百三十一

千四百九十八番

~~~~~

~~~~~

~~~~~

た

新河

~~~~~

た

保志下

千四百九十九番

~~~~~

~~~~~

た

心之梅

~~~~~

た

有家下

千四百九十九番

~~~~~

~~~~~

~~~~~

た

~~~~~

~~~~~

た

~~~~~

千四百九十九番

~~~~~

七條

後中

Handwritten cursive text on the right side of the top page.

千五百九十一

七

具親

Handwritten cursive text on the left side of the top page.

七條

母

Handwritten cursive text on the right side of the bottom page.

千五百九

七

取

七條

Handwritten cursive text on the right side of the bottom page.

七

取

Handwritten cursive text on the left side of the bottom page.

七條

Handwritten cursive text at the bottom of the bottom page.

千五百九新合卷第二十終

Handwritten mark at the bottom left of the bottom page.



